

第 2 学 年 道 徳 学 習 指 導 案

日 時 平成 20 年 10 月 17 日 (金) 5 校時
児 童 男 11 名 女 16 名 計 27 名
指 導 者 阿 部 純 子

- 1 主題名 たいせつないのち 3 - (2) 生命尊重
- 2 資料名 「はねのないかぶと虫」 (出典『みんなのどうとく 2 年』学研)

3 主題設定の理由

(1) 価値について

第 1 学年及び第 2 学年の道徳の内容 3 「主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」の項目 (2) は「生きることを喜び、生命を大切にすることをもち、心をもつ。」である。

生命を大切にする価値は、時代が変化しようと不易である。低学年においては、一般的に生命の大切さは、具体的で身近な体験と結びつけて考えている。たとえば「朝元気に起きておいしく朝食が食べられる。」「学校に来てみんなと楽しく学習できる。」などである。このようなきわめてあたりまえのことで見過ごしがちな「生きている証」を実感し、そのことに喜びを見いだすことによって生命の大切さを自覚できるようにすることが求められている。それに加えて、植物の生長の観察や動物の飼育などを通して、生命が種子や子孫を通して受け継がれていくこと、失った生命は二度と戻らないことに気づかせていくことも必要である。また、動物の飼育には「死」がつきものであり、死んだ動物は決して生き返らない。そこに生命の存在があったことに気づかせ、かけがえのないものであることを感じ取らせることが大切であると考えられる。

(2) 児童について

2 年生の児童は、身近な動植物に関心を持ち、世話や観察をするなど生き物の生命に関わる機会も多いといえる。生活科では、アサガオや枝豆・ミニトマトなどを育て、家では犬や猫などのペットをかわいがっている様子が見られる。かぶと虫やザリガニなどの生き物を捕まえたり、飼ったりしている子どももいる。しかし、興味が継続せずほおっておいたり、小さな生き物をおもしろ半分で見たりしがちでもある。また、経験の少ない児童もいる。そこで、生活科の「生き物をおおう」の単元を通して、生き物に優しく接し、世話をする体験をさせ、時には生き物が死んでしまうという悲しみをのりこえさせたい。そして、道徳の時間では、生き物とふれあった経験を語らせながら、生命を大切にする心情を育てていきたい。

(3) 資料について

本資料は、弟が保育園からもらってきたはねのないかぶと虫を大切に飼うが死んでしまうという話である。主人公の「ぼく」は、はねがないのに懸命に生きるかぶと虫の様子を観察するうちに、それまで強い虫が好きだったのにそのかぶと虫を大切に思うようになっていた。不完全な体なのに、必死に飛ぼう生きようとするかぶと虫の姿に、主人公は感動し応援する。けれども、9 月になりはねのないかぶと虫は死んでしまう。「ぼく」は弟と一緒に、かぶと虫のおはかをつくってあげ、心の中で「ありがとう」とよびかける。

かぶと虫を世話し、応援する主人公の気持ちに共感させながら、自分たちの生き物との関わり方を思い起こさせ、死んでも思い出に残るかけがえのない生命のすばらしさに気付かせていきたい。

4 本時の指導

(1) 研究主題との関わり

①本時の位置づけ（道徳的実践活動の活動計画より）

	道徳的実践活動の ねらい	第1段階 道徳的価値への 気付き	第2段階 活動・体験	第3段階 道徳性の高まり
5月 5 10 月	身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接することを通して、生命を大切にすることを育てる。	【道徳の時間】 3-(2)生命尊重 「びよちゃんとひまわり」 生命が受け継がれていることに気づき、生命の大切さについて考える。	【生活科】 「やさいをそだてよう」 植物の栽培に関心を持ち、世話の仕方を調べたり人に聞いたりして世話をする中で、植物にも生命があることに気づき、愛着を持って継続的に育てようとするができる。	【道徳の時間】 3-(1)自然愛、動植物愛護 「げんきでねあげはくん」 身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接することを通して、生命を大切にすることを育てる。
		【道徳の時間】 3-(1) 自然愛、動植物愛護 「げんきでねあげはくん」 身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接することを通して、生命を大切にすることを育てる。	【生活科】 「生きものをかおう」 生き物の飼育を通じて、自分たちと同じように生命をもって成長していることなどに気づき、親しみを持って大切にすることができる。	【道徳の時間】 3-(2)生命尊重 「はねのないかぶと虫」 かけがえのない生命に気づき、生命あるものを大切にすることを育てる。 本時

同時

②指導の手立て

本時は第3段階「道徳性の高まり」にあたる。

これまで、道徳「びよちゃんとひまわり」（生命尊重）で、生きている喜びや生命の連続性に気づき、生活科の「やさいをそだてよう」で個々にミニトマトを世話して育てることを通して数多くの実をつける生命をはぐくむ喜び、それを収穫して味わう喜びを感じることができた。

また、第1段階「道徳的価値への気付き」にあたる、道徳「元気でね、あげはくん」（自然愛、動植物愛護）の資料を通して、生き物の成長の不思議さを愛おしく思い、命を大切にすることを感じ取り、改めて動植物に優しく接することの大切さに気付くことができた。そして、第2段階「活動・体験」として、生活科「生きものをかおう」でザリガニや昆虫などをつかまえ、観察しながら世話をすることを通して、生き物に親しみを持ち大切にしようという気持ちも培ってきた。

そこで、今までの実践活動で培ってきた、優しく生き物に接することや生命を素晴らしく思い大切にしようという心情を生かし、本時の導入では、生活科や家庭での飼育活動のことを思い起こさせながら、育てた喜びや、死んだことへの悲しみを語らせ価値への方向付けをはかりたい。【事前の体験の想起】

展開前段では、主人公の「ぼく」が、はねがないのに懸命に生きるかぶと虫の様子を観察することを通してかぶと虫を励ましたくなる気持ちや、感動する気持ちに共感させていく。そして、かぶと虫が死んでしまった場面では、「ぼく」の気持ちをワークシートに書かせて話し合い、悲しみだけではなく感謝の気持ちにも気づかせていきたい。【書く活動】

展開後段では、「いのち」について今まで体験したことをもとに十分語らせ、命を大切にしようという思いを高めたい。

そして終末では、命のかけがえのなさ大切さについての話を聞かせ、価値について深めたいと考える。

(2) ねらい

かけがえのない生命に気づき、生命あるものを大切に育てる。

(3) 展開

	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点
導入 7分	1 動物や生き物を飼育したことについて話し合う。 ○どんな生き物を飼ったことがあるか。心に残っていることは何か。	<ul style="list-style-type: none"> ・犬 ・猫 ・ざりがに ・カブトムシ、クワガタ ・名前をつけてかわいがった。 ・犬の赤ちゃんが生まれた。 ・死んだときかわいそうだった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科の飼育活動のことを思い起こさせながら育てた喜びや、死んだことへの悲しみを語らせ価値への方向付けを図りたい。 <p style="text-align: right;">【事前の体験の想起】</p>
展開 28分	2 資料「はねのないかぶと虫」を読み、「ぼく」の気持ちについて話し合う。 (1)はねのないかぶと虫を見て「ぼく」はどう思ったか。 (2)はねのないかぶと虫が飛ぼうとしているのを見て「ぼく」はどんな気持ちになったか。 (3)はねのないかぶと虫が死んでしまったとき、「ぼく」はどんなことを思ったか。	<ul style="list-style-type: none"> ・変なかぶと虫だな。 ・はねがないのによく生きてきたな。 ・大切にしよう。 ・かわいそうに。 ・だいじょうぶかな。 ・一生懸命生きようとしている。 ・がんばれ。 ・かわいそう。 ・死んでしまうなんて悲しい。 ・もうがんばるところを見られない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面絵を使って、読み聞かせる ・はじめにはねのないかぶと虫を見て生命のたくましさに気づき、励ましたくなる主人公の気持ちに共感させる。 ・不完全なはねを動かして飛ぼうとするかぶと虫を見て、感動する主人公の気持ちに共感させる。 ・ワークシートに書かせて、じっくり考えさせる。 <p style="text-align: right;">【書く活動】</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・よくがんばったね。 ・思い出をありがとう。 ・忘れないよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・死んでしまったことを悲しむだけでなく、感謝する気持ちになっていることに気づかせる。
8分	<p>3 生き物の命について、感じたことを話し合う。</p> <p>○生き物の命について、感じたことがあるか。 (生きていてどんなこと死んでしまうってどんなこと)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ねこをだっこすると温かい。 ・かわいがっていた犬が死んだとき悲しかった。 ・ちゃんとお世話してあげたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・命のかけがえのなさ、大切さをあらためて感じ取らせたい。
終末 2分	<p>4 生き物の命についての話を聞かせる。</p> <p>○小さなものにも、大きなものにも命は一つしかない。おもちゃは、動かなくなっても電池を取り替えたり、直したりできるが、「いのち」は取り替えられない。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・「いのち」の尊さ、不可逆性を伝えていきたい。

(4) 板書計画

いのち

ひとつにひとつだけ

- ・かわいそう。
- ・かなしい。
- ・もうがんばるところを見られない。
- ・よくがんばったね。
- ・思い出をありがとう。

がそい
虫かて
と動し
ぶをと
か羽う
る絵

- ・かわいそうに。
- ・だいじょうぶかな。
- ・いつしよけんめい生きようとしている。
- ・がんばれ。

と虫
かぶ
の絵

- ・へんなかぶと虫だな。
- ・はねがないのによく生きてきたな。
- ・たいせつにしよう。

はねのないかぶと虫

作る
をい
墓を
おっ
絵

5 資料分析
《主要場面》

資料名 「はねのないかぶと虫」(みんなのどうとく2年 学研)
《主人公の意識》 《児童の意識》

《意識の焦点化》

《主な発問》

<p>弟がもらってきたはねのないかぶと虫を見ているうちに、「ぼく」はそれがかわいくて大切になる。</p>	<p>●変なかぶと虫だな。 ○はねがないのによく生きてきたな。 ○かわいい、大切にしよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ どうして、はねが変になってしまったんだろう。 ・ はねがないのによく生きてきたな。大丈夫かな。 ・ 元気に生きぬいてほしいと思っているんだな。 	<p>はじめにはねのないかぶと虫を見て、励ましたくなる主人公の気持ちに共感させる。</p>	<p>(1)はねのないかぶと虫を見て「ぼく」はどう思ったか。</p>
<p>はねのないかぶと虫がはねの付け根をうごかして飛ぼうとしているのを見て、「ぼく」は思わず応援した。</p>	<p>○かわいそうに。 ○だいじょうぶかな。 ○一生懸命生きようとしている。 ○がんばれ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ はねがないのに飛ぼう動かそうとしているんだな。 ・ じっと見て応援しているんだ。 ・ がんばってほしいな。 	<p>不完全なはねを動かして飛ぼうとするかぶと虫を見て、感動する主人公の気持ちに共感させる。</p>	<p>(2)はねのないかぶと虫が飛ぼうとしているのを見て「ぼく」はどんな気持ちになったか。</p>
<p>はねのないかぶと虫が死んでしまい、「ぼく」はおはかをつくってうめてあげた。</p>	<p>○かわいそう。 ○死んでしまうなんて悲しい。 ○もうがんばるところを見られない。 ○よくがんばったね。 ○思い出をありがとう。 ○忘れないよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ かわいそう。 ・ やっぱり死んでしまったんだ。 ・ おはかをつくってあげてよかった。 ・ お世話してがんばるところを見守ってあげていたのを思い出しているんだな。 ・ 忘れられない思い出になったね。 	<p>死んでしまったことを悲しむだけでなく、感謝する気持ちになっていることに気づかせる。</p>	<p>(3)はねのないかぶと虫が死んでしまったとき、「ぼく」はどんなことを思ったか。</p>